

令和 4 年度 下 半 期 指 定 管 理 者 管 理 運 営 状 況 シ ー ト

●施設の概要

施設名	柳津児童館	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市柳津町丸野1丁目34番地		
指定管理者名	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで		
選定方法	☒ 公募 ☐ 非公募		
料金制	☐ 使用料 ☐ 利用料金 ☒ 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	19,175,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建のうち2階部分 ◇敷地面積:2,698.00㎡ ◇延床面積:681.55㎡ ◇施設内容:遊戯室兼大集会室、幼児室、図書室、創作活動室、事務室、駐車場 ※留守家庭児童会開設場所		

●利用状況

		R4下半期	R4上半期	R3下半期	R3上半期	R2下半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	12,271	12,130	11,460	6,691	8,873
	移動児童館利用者数	105	157	0	126	0
各室稼働状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※2(2)	※5(0)	0	※4(0)	0
	開館日数(単位:日)	144	148	145	89	145

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①計画通り実施しました。開館時間を16:30までとし、30分間館内消毒、清掃時間としコロナ対策に努めました。 ②所長(兼務、児童厚生員)、常勤職員(児童厚生員)2人、非常勤職員(児童厚生員)1人を配置しました。 ③児童用おたよりは毎月小学校に配布し、幼児用おたよりは保健センター及び公民館もえぎの里に掲示しました。ホームページはスマートフォンにも対応し、市民の皆様へのお知らせやブログ、動画も用いてタイムリーで分かりやすく配信しました。また、当岐阜市社会福祉事業団が管理しているほかの8施設のホームページとリンクを貼り、他館の情報も入手しやすくしました。気象情報発令時やコロナ感染対策による休館などの情報は、迅速にホームページにアップすると同時に行事参加予定者には電話連絡にてお知らせしました。 ④利用者アンケート(幼児の保護者、小中学生)の実施 ご意見箱を設置しました。アンケートの結果は、館内に掲示するとともにホームページに掲載し、迅速に改善できるものはして対応に努めました。苦情解決の仕組み・苦情の申出先を館内掲示することで苦情に対し適切に対応できる体制としました。 ⑤仕様書、事業計画書に基づき事業を実施しました。
自主事業 提案事業		
施設管理	①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①管理者点検マニュアル通りに実施しました。 ②館内清掃はトイレを含み毎日実施。週2回就労継続支援B型事業所によりさらに徹底した清掃、その他業者によるカーペット、窓等の清掃を実施しました。新型コロナウイルス感染症防止対策として、玩具は使用後、ボックスに入れてもらいその都度消毒をしました。さらに利用者の少ない昼休み、閉館後には噴霧器による消毒を行いました。細かい玩具や、本等はオゾン保管庫に入れて徹底した対策を行いました。部屋の窓は常に開けるとともに、空気清浄機を使用して、換気対策をしました。 ③使用していない部屋の消灯、適正室温の設定など、節電と節水を実施、また工作には廃材を利用し、環境に配慮した施設運営を心掛けました。 ④月1回の職員による施設の安全点検・遊具点検、月2回のAED器具の点検、毎日の消毒、清掃を行い、遊具・玩具、設備、備品の維持管理に努めました。

施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速・適切な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	①緊急性のあるものは、岐阜市社会福祉事業団事務局及び岐阜市に即時報告して判断を仰ぎました。利用者の安全性が確保できないものは、安全が確保されるまで利用中止としました。軽微で予算内で対応可能なものは直ちに業者へ修理を依頼しました。破損した玩具は、職員で修理可能なものは職員で修理し、修理不能なものは、「おもちゃ病院」の協力を得て修理していただきました。非常口の開閉ができず防犯上、不具合を生じたため岐阜市依頼し修繕致しました。 ②本年度より電話回線を児童館専用にする事で、利用者からの対応がスムーズにできるようになりました。また、空調機に不具合を生じたため市役所に修繕を依頼しました。
危機管理法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①、②、③岐阜市社会福祉事業団個人情報保護規程、災害対策マニュアル、児童福祉法等関係法令を遵守し、適切に実施しました。災害や事故などが発生した場合は岐阜市社会福祉事業団事務局並びに岐阜市へ迅速に報告する体制を維持しています。非常用備品の点検により、期限切れの飲料水と、カロリーメイトの入れ替えをしました。個人情報が記載された用紙はすべてシュレッダ処理を行い個人情報の漏洩防止を徹底しました。また、年2回消防訓練を消防設備委託業者の立ち合いの元、水消火器を使用して、放課後児童クラブと併設する老人センターと合同で実施(3月)しました。

●利用者評価

利用者アンケートの実施状況	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> 期間: 令和4年12月6日～令和4年12月24日 回答者数: 50人 <小・中・高校生用アンケート> 期間: 令和4年12月22日～令和5年1月10日 回答者数: 50人(小学: 1年1人、2年2人、3年10人、4年16人、5年15人、6年3人) (中学: 1年0人、2年2人、3年1人)(高校: 1年0人、2年0人、3年0人)
利用者アンケートの実施結果	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> 【校区】 柳津(17人)、鶯(8人)、市橋(7人)、茜部(6人)、且格(3人)、鏡島(2人)、その他市内(3人)、その他市外(4人) 【年齢】 10代(0%)、20代(12%)、30代(82%)、40代(6%)、50代以上(0%) 【利用頻度】 初めて(2%)、ほぼ毎日(0%)、週2～3回(4%)、週1回(36%)、2週に1回(38%)、月1回(18%)、その他(2%) 【来館相手】 子(100%)、孫(0%)、友人(0%)、その他(0%) 【子・孫の年齢】 0歳(14%)、1歳(46%)、2歳(23%)、3歳以上(17%) 【来館方法】 徒歩(2%)、自転車(8%)、自家用車(90%)、公共交通機関(0%)、その他(0%) 【何で知った】 ホームページ(60%)、広報紙・チラシ(4%)、学校(0%)、保育所・幼稚園(0%)、知人・友人(23%)、ぎふし子育て応援アプリ(4%)、ソーシャルメディア(0%)、その他(9%) 【評価】 (あいさつ) 満足(90%)、ほぼ満足(10%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%) (言葉づかい) 満足(88%)、ほぼ満足(12%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%) (利用者対応) 満足(84%)、ほぼ満足(16%)、普通(0%)、やや不満(0%)、不満(0%) (利用しやすさ) 満足(80%)、ほぼ満足(12%)、普通(8%)、やや不満(0%)、不満(0%) (整理整頓) 満足(80%)、ほぼ満足(18%)、普通(2%)、やや不満(0%)、不満(0%) (清潔感) 満足(70%)、ほぼ満足(26%)、普通(4%)、やや不満(0%)、不満(0%) (換気) 満足(76%)、ほぼ満足(20%)、普通(4%)、やや不満(0%)、不満(0%) <小・中・高校生用アンケート> 【学校名】 柳津小(46人)、その他市内(4人) 【学年】 小学: 1年(2%)、2年(4%)、3年(20%)、4年(32%)、5年(30%)、6年(6%) 中学: 1年(0%)、2年(4%)、3年(2%) 高校: 1年(0%)、2年(0%)、3年(0%) 【利用頻度】 初めて(10%)、毎日(2%)、週4・5回(16%)、週2・3回(34%)、週1回(30%)、その他(8%) 【来館相手】 ひとり(14%)、友人(72%)、兄弟姉妹(8%)、父母(6%)、祖父母(0%)、親戚(0%)、その他(0%) 【来館方法】 徒歩(16%)、自転車(58%)、自家用車(20%)、バス・電車(0%)、その他(6%)

	【好きな遊び】 ドッジボール(52%)、バドミントン(11%)、けん玉(8%)、カロム(7%)、卓球(5%)、ぬりえ(4%)、マンカラ(4%)、皿まわし(3%)、その他(6%)
利用者からの 要望・苦情と 対処・改善	<保護者> ○幼児室のたたみが服につくのが困ります。 (回答) ・岐阜市役所に依頼して、改善していくように努めます。 ○乳幼児向けに体操の時間や紙芝居などのふれあい遊びの時間が予約制ではなく、短時間で良いので週に何日かあると嬉しく思いました。 (回答) ・来年度、取り入れていくように計画していきます。 (クラブへの意見) 【要望】 ○キャンセル待ちができるとありがたいです。 (回答) ・キャンセル待ちを活用していましたが、周知不足であったため、キャンセル待ちを活用して頂けるように周知していきます。 ○もっと参加できるクラブがあると嬉しいです。(コロナで難しいですが・・・) (回答) ・来年度に向けて、新しいクラブや講座を増やす予定にしていますので、楽しみにしててください。 ○他の参加者の方ともう少し交流ができるとよかったです。 (回答) ・他の利用者との交流ができるように、クラブの中でフリースークの時間を設定したり、クラブ以外の利用の場合は、任意で名札の着用をすることでの交流等考えていきます。 ○もう少し身体を動かす遊びがあると嬉しいです。 (回答) ・今までは制限がありましたので、来年度より、体を動かせるものについても取り入れていこうと思います。 ○回数がもう少しあると嬉しいです。 (回答) ・来年度は、新しい講座やクラブも企画しております。楽しんで頂けるように努めて参ります。 <児童> ・完璧です

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定 管理者	所管課	評価 委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	A	A	A
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表 ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	A	A	A
		区分評価				A
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用（設置目的）を最大限発揮するものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業（行事）等の実施	S	S	S
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者アンケートの実施 ・利用者ニーズ・苦情・クレームへの着実な対応・運営への反映	S	S	S
		⑤利用者に対するサービス向上の方策（窓口対応、プロモーション、設備の整備など）	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	A	A	A
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	A	A
		⑦施設の効用（設置目的）を最大限発揮できるスタッフの配置	・過不足ない適正な人数配置、無理のない職員体制	A	A	A
		区分評価				A
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A	A	A
		⑨管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施（リサイクルやリユース、節水・節電など）	A	A	A
		区分評価				A
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	⑩組織及びスタッフ（採用予定者も含む）の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員（施設が児童センターの場合は体育指導員）を1人以上配置（このうち最低1人は常勤職員とすること）	A	A	A
		⑪スタッフ（採用予定者も含む）の管理、監督体制	・職員の連携体制、職場環境の整備	A	A	A
		⑫スタッフ（採用予定者も含む）の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	A	S	S
		⑬リスクへの対応方策（利用者の安全確保策、防止策、非常時の対応マニュアルなど）	・危機管理（リスク）や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価				A
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域（以下「地元」という。）の振興、活性化などに貢献できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成（一部業務の再委託先）、地元住民の活用（雇用又はボランティア等）	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	A	S	S
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加（地元行事への参加）又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	A	A	A
		区分評価				S

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組み
に対する評価

□情報公開、広報の方策(公平性・透明性②)

- ・地元ボランティアと主任児童委員、羽北高校の生徒のボランティアによる「学びの広場」については、具体的な内容を記したチラシを作成して、「勉強の仕方がわからない」「何を勉強していいかわからない」という児童に対して、筆記用具だけ持参して参加する事で学習に繋げる目的を掲載して、利用増を図りました。直接学校におたよりと一緒に持って行き、先生方にも直接話をし、PRIに努めました。
- ・小学生行事の際に製作したクラフトの写真をホームページにて掲載することで、児童は、自分たちが作った作品が掲載されていることを、楽しみにしており、今後の参加にも繋がりました。

□業務の改善や工夫(効果性③⑥)

- ・毎月10講座ほどある講座の申し込みについては、今までは、自由に複数の講座に申し込みが出来ることで、応募総数が増えて、特定の講座に集中してしまう傾向がありました。そのため11月からは、重複しての講座の申し込みをやめて、一つの講座を申し込んで頂くことで、各講座への申し込みの偏りがなくなり、多くの人の利用に繋がるようになりました。申し込み方法は、ホームページや館内掲示にて募集しました。定員に達していない講座は再度、館内掲示やホームページにて再募集を募ることで、偏ることなく、多くの人の利用がありました。また、当日にキャンセルや定員に達していない講座については、一般来館された方や講座を知らなかった人に直接参加の声掛けをすることで、講座を知って頂く機会にもなり、次回への利用に繋がりました。
- ・お正月明けに利用してくれた児童にゲームの景品として一口サイズのお菓子を用意したことで盛り上がりました。今後利用の少ない時にも利用に繋がる目的として行いました。
- ・毎週土曜日と、冬休み、春休み等の長期休暇には、児童にはハロウィン、クリスマスなど季節感あるクラフトを行い季節行事を伝えながら、物を作る楽しさを体験できるようにしました。また、マンカラやトランプなどのイベントを行い、児童館に来ると何か楽しいことがあると周知する事に繋がり、小学生の利用増となりました。中でも、ボール遊びをコロナ対策を講じた上で、人数制限を解除したことで、ボール遊び目的に来館する高学年の児童が増加しました。その中でも異学年で遊ぶこともあるため、注意を促して見守っています。異学年と遊ぶ中で、学年が下の児童に対して、手加減をしてボールを投げる等、一緒に遊ぶことが出来るようになっていきます。幼児には、幼児クラブや講座がない時に、幼児クラブに参加できなかった利用者や、一般に来館された利用者にも、季節感のあるクラフトを行いました。このように、幼児も小学生もいつ来館しても楽しんでいただけるような行事を行っています。クラフトを目的で来館する子も定着し、たまたま来館したときにイベントがあって楽しかったと言って帰っていく児童もあり、次回への児童館の利用に繋がるものとなりました。

□利用者のニーズを運営に反映(効果性④)

- ・エンジェルタイム(0歳児)では、手遊びなどは、今までCDのテンポより子どもの状態に合わせるために、職員が歌って行っていました。音源を使って欲しいという要望に応じてCDを使って手遊びを行いました。CDを使用した方が、教室内に音が響いて楽しい雰囲気が作れました。
- ・幼児クラブで時間が短縮されていたため、体操は、1番だけで切り上げていましたが、2番もやってほしいという声があり2番まで行うことで喜んでいただけました。時間は少し延長しましたが、それでも満足感を得ることが出来ました。
- ・幼児クラブの利用者の中には、幼稚園に行く前のステップとして利用されている方も多く、幼稚園での勤務の経験のある職員に実際幼稚園ではどのような遊びを使っているのかと聞かれました。そのため、幼稚園で使っていた遊びの中で子どもたちが一番喜んだ「色合わせ」を取り入れました。誕生月から幼稚園に行く幼児にとって事前に体験できたことは自信にも繋がり安心して喜ばれました。
- ・幼児クラブの活動の中で、「電車が好きなので、電車に関する遊びを取入れたい」という要望には電車遊びを取り入れ、体を動かすことを増やして欲しいという要望に対しては、体を動かす内容を増やすなど要望に対して即座に対応しています。
- ・母親から直接クラフトをやりたいという声が聞かれましたので、母親対象にしたクラフト「ちょこっと・クラフト」を実施し好評でした。「お雛様作り」など季節感あるクラフトは特に喜ばれました。幼児を抱えて参加する母親もあり、おもちゃを持参して母親のそばで遊ばせたり、職員がサポートをすることで母親も安心して作品作りに取り組んでもらうことが出来ました。このように母親の満足を得られることでリフレッシュすることが出来て、心のゆとりに繋がります子育てにも余裕ができるお手伝いすることができました。
- ・母親クラブで要望のあった「ドアリース・ハンガー」「フラワーフレーム」の講座を実施しました。高度な技術を要するため、講師の指導のもと、出来上がった作品は非常にレベルも高く、簡単に手に入らない材料で使った作品に、大変満足をした様子でした。また、母親クラブ以外の利用者の参加も募り一緒に参加してもらいました。互いの作品を楽しく鑑賞し会話をする姿が見られました。
- ・後期のクラフトクラブにて自分たちの作りたいものを決めて実施しました。季節感あるクラフトを作り家族に見せたいと喜んでいました。また、異学年との交流が見られ、作った作品で一緒に遊んだりすることが出来ました。

□配慮を要する子どもへ適切な対応(効果性④)

- ・配慮を要する利用者へ適切な対応をいたしました。

□地域の諸団体との連携、交流(貢献性⑭⑮)

- ・夏休み学習支援として実施して好評であった「学びの広場」を春休みにも行いました。青少年育成会、主任児童委員、羽北高校の生徒にボランティアをお願いし、学習プリントを用意して筆記用具だけ持参しても良いように準備をして受け入れる体制を作りました。
- ・岐阜聖徳学園大学看護学部の生徒が実習の一つとして、児童館を利用する母親にインタビューすることで、交流を持ちました。生徒にとっても地域で暮らす乳幼児を持つ母親の生活を知り、また、そこで生まれる喜びや悩みを聞くことは今後役に立つものになったようです。また、母親にとっても、日常の話をすることでストレス発散にもなり楽しい時間を持てたようでした。
- ・老人クラブと3世代間交流事業にて、花もち作りを実施しました。楽しく会話をしながら一つの作品をつくりあげていきました。また、幼児クラブのサンタクロース役をお願いして幼児と普段接することの少ない高齢者の交流を深めました。
- ・老人センターの利用者と児童館を利用する児童や、幼児を持つ母親との交流が共通の玄関を通して、職員が中に入り、会話をすることで生まれています。核家族が多い中でお互いにとってよい刺激になっています。
- ・子ども110番の家に登録し、子どもが助けを求めた際は、保護をします。状況により適切な処置を取って子どもの安全を守るお手伝いを致します。学校の登下校時や、学校の屋外行事の際にトイレ利用をして頂いております。

□新型コロナウイルス感染防止対策(安全性、安定性③)

- ・感染防止対策マニュアルに沿った感染症対策を実施しました。入館時の検温、消毒、イベント毎の消毒、使用毎のおもちゃの消毒、部屋の換気、イベントの人数制限など徹底した対応をしていきます。一度ふれたおもちゃをかごに入れてもらいその都度消毒をしているため、安全に安心して遊べると利用者から好評を得ています。また、おもちゃの数も多いから楽しいという声もあります。

□新規事業の実施(効果性③)

- ・母親から直接クラフトをやりたいという声が聞かれましたので、母親対象にしたクラフト「ちょこっと・クラフト」を実施し好評でした。「お雛様作り」など季節感あるクラフトは特に喜ばれました。幼児を抱えて参加する母親もあり、おもちゃを持参して母親のそばで遊ばせたり、職員がサポートをすることで母親も安心して作品作りに取り組んでもらうことが出来ました。このように母親の満足を得られることでリフレッシュすることが出来て、心のゆとりに繋がります子育てにも余裕ができるお手伝いすることができました。

	・母親クラブで要望のあった「ドアリースハンガー」「フラワーフレーム」の講座を実施しました。高度な技術を要するため、講師の指導のもと、出来上がった作品は非常にレベルも高く、簡単に手に入らない材料で使った作品に、大変満足をした様子でした。また、母親クラブ以外の利用者の参加も募り一緒に参加してもらいました。互いの作品を楽しく鑑賞し会話をする姿が見られました。 ・ベビーマッサージと保健師の資格のある講師にボランティアにて実践して頂きました。1歳未満対象の講座であり、ゆったりとした時間が流れていました。新米ママにとって育児の悩みも多く、ベビーマッサージ後の育児相談は好評でした。 ・児童からの要望である「ナインストライク」を行い、盛り上がりを見せました。 □リスク防止策の実践(⑬) ・消防訓練を年2回実施しています。併設されている老人センター、児童クラブと合同で行っています。3月の訓練の際には、消防設備点検業者に立ち会ってもらい、避難の際の職員の行動や利用者の動きについて指導を受けました。また、実際に参加者は水消火器を使用しました。緊急時に消火器を使用できることを目的としました。
前回までの意見を踏まえた取組み状況	□管理運営については適正に運営されている ・引き続き上半期と同様に管理運営していきます。 □地域との連携事業や交流事業を積極的に行われている点を評価する ・今後も引き続き、老人クラブとの3世代間交流事業を継続していきます。 ・また学校と連携して、不登校児、発達障害児の居場所を継続して提供していきます。 ・青少年育成会と羽島北高校の学生による学習支援もさらに人数を増加させていきます。 ・岐阜聖徳学園大学「それいけ！ぐんぐん隊」、看護学部の学生との交流など地元大学との連携も継続して利用者にとってプラスになるような活動をしていくために協力を得ていきます。 ・その他にも地元で活動されている人たちと連携をとって交流事業の促進を図っていきます。
今後の取組み	□高齢者との交流を図るために、今後も継続して柳津町老人クラブ連合会と3世代間交流事業としての行事や、老人センターとの関わりを深めていきます。 □岐阜聖徳学園大学「それいけ！ぐんぐんたい！」と連携をして、遊びやクラフトを通して世代を超えた交流を安全に実施できるように定期的に取り組みます。 □不登校児を受け入れる居場所として、学校と連携して受け入れる体制を作っていきます。また、発達障害児の居場所になるように見守りながら支援していきます。 □SNSをもっと活用して、活動内容等の情報をInstagramにアップするなど今の若い母親のニーズに合ったサービスを展開していきます。 □地域で幼児支援の活動をしている人たちと協力して、利用される方にとって新しく魅力ある事業を展開していきます。(英会話、絵本や紙芝居の読み聞かせ、ベビーマッサージなど) □幼児の母親が利用した際にもっと他の母親との交流を求めているため、もっと母親同士の交流を図った取り組みをしていきます。 □一般利用の幼児に対し午後の少人数であることを生かした取り組み(絵本の読み聞かせや、手遊びなど)をすることで午後の活動をより充実したものにしていきます。 □おたよりを紙ベースだけではなく、チームスなど今の情勢に合わせた情報の配信を検討していきます。 □虐待が疑われる幼児、児童に対して幼児は保健センター、児童はエールと連携を図っていきます。そのために、利用する幼児や母親に対して注意深く観察し、虐待が疑われる場合は職員と情報を共有して取り組んでいきます。

●所管課の意見

- 講座の申し込み形式を変更したり、新たに母親対象のクラフトを行ったりするなど、積極的に業務改善や新規事業の実施に努めている。
- アンケートや普段の聞き取りから利用者の要望を汲み取り、即座に業務改善・新規事業の実施など、利用者ニーズの反映に努めている。
- 近隣の高校と連携して学習支援を行ったり、老人会との交流を行ったりするなど地域の各種団体と積極的に交流し、連携を深めている。

●指定管理者評価委員会の意見

利用者のニーズ把握に積極的に努めていることがうかがえる点が評価できる。
大学生だけでなく、高校生も学習指導にあたっているのは大いに評価できる。